

## 令和3年司法試験合格体験記

2020年度修了（既修コース） 広川 千晴

16期既修の広川千晴です。岡山大学法学部を卒業し、そのまま岡山大学ロースクールに進学しました。今後、司法試験を受験される方に向けて、私が意識していたことを述べたいと思います。

1つ目は、授業を大事にするということです。授業では、予備校のテキストや基本書ではよくわからない点を先生方に聞けるチャンスです。特に、こういった事情をどのように評価できるのかというような点は、基本書を読んでいるだけではイメージしづらいと思います。私は、授業で扱った事情の評価の仕方を論証集にメモするなどしていました。そのおかげで、あてはめの力が伸びたと思います。また、授業を聞いて深く考える中で、予備校等で使われている一般的な論証を自分流に書き換えて、より説得的な答案が書けるようにもなったと思います。

2つ目は、三段論法の形式を崩さずに文章を書くということです。特に司法試験本番では、何が論点なのかも全くわからないということもあります。そういう場合でも、問題となりそうな点を挙げて、条文の文言にひきつけ、判断基準を自分なりに設定して、しっかり事実を拾ってあてはめをするように心がけていました。これがどれだけ得点につながったのかはわかりませんが、少なくとも、何も書かない場合や形式が崩れた文章を書くよりはマシだったと思います。

また、文章作成については、読みやすい文章を書くことも意識していました。同じような内容でも、助詞や接続詞の使い方や一文の長さなどによって読みやすさに違いが出ます。文章を書くことが苦手な方は、一度自分が書いた答案を声に出して読んでみるといいと思います。目で文字を追っているだけではわからない自分の癖に気付けるとと思います。

最後に、私が司法試験に合格できたのは、先生方をはじめ、同期の友人や先輩後輩、事務の方々の支えや家族の協力があったからこそです。お世話になったすべての人に、この場をお借りして御礼申し上げます。